

豊かな緑の中で、 自然に触れながら暮らしたい

1 自然と緑

(1) 自然を次世代に残したい

○私たちは、貴重な自然を次世代に残していきたいと思います。まちを取り巻く里山や森林、鎮守の森などは、ヒートアイランド化からまちの環境を守ります。治水や防災の観点からも、それらを保全しなければなりません。また、豊かな自然は、健やかに子どもが育つための条件でもあります。人間も含めた生態系を守っていくには、緑のかたまりが必要です。

○周辺開発から自然や緑を守るには、不便や経済的な不利益などの痛みを伴いますが、それでも緑を守っていく決意が必要です。

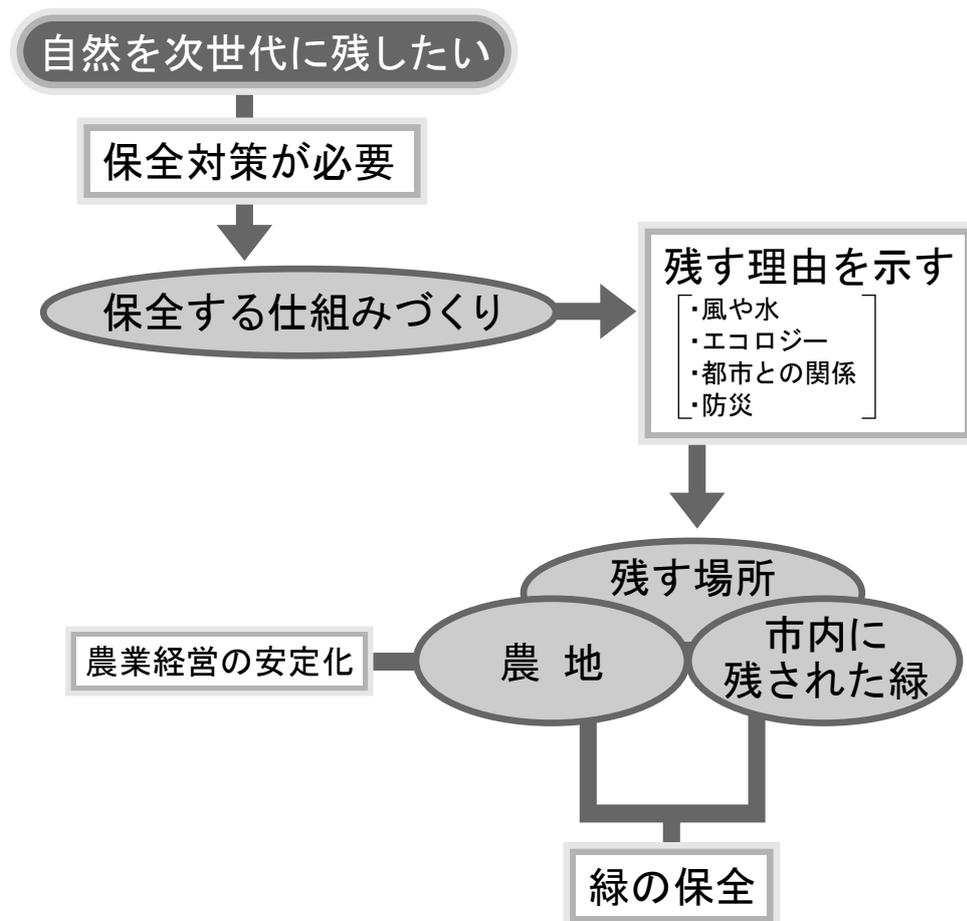
道路整備や河川改修などの公共工事により自然が破壊されますが、これも便利さの追求と緑の大切さのどちらを選ぶのかというジレンマを生み出しており、市民の価値観の変革が求められます。具体的に残す場所は、風や水、エコロジー、都市との関係から、残す理由を明らかにしながら検討する必要があります。

自然や緑を保全していくためには、市民、企業、行政が一体となった新しい仕組みをつくっていくことも必要でしょう。





○自然や緑の保全には、日本の稲作文化が大きくかかわっています。水田・棚田は、日本文化の宝です。水田を中心とした農地を保全しなければなりません。農地は、農業生産のためだけでなく、ビオトープづくりなどにも有効です。農地を含む自然や緑は、ボランティア活動、市民活動の場として活用することも可能です。
また、農地を残していくためには、農業経営の安定化を図る必要があります。



(2) 市街地の緑化に努め生態系を守りたい

○私たちは、自然や緑と離れるのではなく、草や雑木林、その中にいる鳥や虫などの小動物を含めて、自然ときちんと付き合っていこうと思います。

虫を嫌がったり、野生の小動物と接することを嫌う子どもが増えています。自然と日常的に接する機会が少ないことが、そういった現象を生み出しているのではないのでしょうか。子どもにとっても、大人にとっても、自然教育や生態系に関する教育の場が重要です。

そのため、川や農地、やぶや原っぱなどの、生態系を形成するために重要な場所の保全が大切です。また、市街地の中にも、身近に鳥や小動物がいる、生態系を伴った緑や水のある空間がもっと必要だと思います。学校に草むらなどの自然をつくり出すことも必要です。

○市街地内の緑化は、市民、企業、行政が一緒になり、連携して努力することが可能です。行政は公共空間の緑化に努め、市民が手伝う機会も必要でしょう。

市民や企業は、自分の庭や敷地内の緑化に努める必要があり、そのまちの景





○安らいだり、スポーツをしたり、遊んだりする公園も必要ですが、緑や水が豊富な生態系のある公園も必要です。生態系のある公園は、新しくつくるのではなく、あまり使われていない公園をつくり直せばいいと思います。

○つくった緑や生態系を守り育てるためには、行政に任せるだけでなく、普段から身近に接する市民が主体となって管理していくことも考えられます。ただし、市民が責任を持って管理するには、その仕組みや方法を考えていく必要があります。

